



ホテル エーゼット
HOTEL AZ だより

Vol.8

ご自由にお持ち帰りください
令和4年2月号



波佐見町は長崎県のほぼ中央、佐賀県との県境に位置する町。山に囲まれた内陸部にあるため、県内で唯一「海のない町」です。西は佐世保、南は川棚町、東は佐賀県嬉野市、武雄市、北は有田町に接しています。



株式会社アメイズ
代表取締役社長
六見 賢

Kenichi Anami

1970年生まれ、大分県佐伯市出身。2016年『ホテルAZ』を全国85店舗展開する『株式会社アメイズ』代表取締役社長に就任。柔道初段。趣味はラジコン、ドローン、ロードバイク。

時を超えた 波佐見焼ブームのワケ

穴見 波佐見町は陶器の町として知られています。例年4月末から始まる「ランウェイ」期間は、大きな陶器市が開催されきましたね。

穴見 今日は車で来て、高速道路の波佐見町役場にて(2021年12月21日)

2019年から延期になつています。佐賀県有田町と同時期に開催していました。波佐見町は、陶器の町として、今年も日本で使われている日用・和食器の16%が波佐見焼なんですよ。

家による「分業制」を取つていて、これ

り安く作る技術を磨いてきた歴史がありま

す。量産するための型を作

る「型屋」、生地屋「窯元」といった専門

企業界と同様に安い輸入食器

に押されることもあつたでしょう。

一瀬 ピンチとチャンスの連続です。昔

は登り窯がたくさんあり、燃料は薪で

した。燃料は石炭からガスへと変わ

りました。その燃料革命に対応でき

て、窯元が生き残つていきました。そ

の後、他の製品のが流通革命です。生

産者からやつたのが流通革命です。生

産者による「产地間屋」が活動や販売を

担う「产地間屋」が活躍する時代にな

りました。当ホテルの特徴はお客様のほ

どんが車を使って移動されるため

、窯元に近いといつて交通アクセス

が良さ、無料駐車場を確保している点

です。波佐見町のクルーに聞くと、窯の

保管・点検のために九州の陶郷を回つ

た。町の収益を上げるために仕事や

遊びで訪れる交流人口を増やそうと

していた時期で、本当にタイミングが

良かったです。

一瀬 波佐見焼と有田焼はそれぞれ

異なる歴史がある点は似ていますが

が、性格は全然違います。

穴見 そうなんですね。

一瀬 有田焼は柿右衛門さん

が韓國の陶工たちを連れておいでにな

ったのがスタートです。波佐見は大村

藩の御用窯として焼き物の産地になり

ました。町長5期目を務めている時で

、波佐見町が大村藩と繋がりました。

穴見 そうなんですね。

一瀬 有田焼は柿右衛門さん

は同じで豊臣秀吉の朝鮮出兵です。波

佐見は大村藩、有田は鍋島藩で、藩主

が韓國の陶工たちを連れておいでにな

ったのがスタートです。波佐見は大村

藩の御用窯として焼き物の産地になり

ました。町長5期目を務めている時で

、波佐見町が大村藩と繋がりました。

穴見 そうなんですね。

一瀬 安いだけの食器ではない、

食器にどうわざずに感性が響くものを

受け入れてきたからだと思いますね。

波佐見焼はなぜ、どんどん変わつ

つたのでしょうか。

穴見 一言でいえば、「異次元」

という言葉ですね。

一瀬 安いだけの食器ではない、

食器にどうわざずに感性が響くものを

受け入れてきたからだと思いますね。

波佐見焼はなぜ、どんどん変わつ

つたのでしょうか。

穴見 一言でいえば、「異次元」

という言葉ですね。

一瀬 安いだけの食器ではない、

食器にどうわざずに感性が響くものを

受け入れてきたからだと思いますね。

波佐見焼はなぜ、どんどん変わつ

つたのでしょうか。

穴見 一言でいえば、「異次元」

という言葉ですね。

一瀬 安いだけの食器ではない、

食器にどうわざずに感性が響くものを

受け入れてきたからだと思いますね。

波佐見焼はなぜ、どんどん変わつ

つたのでしょうか。

穴見 一言でいえば、「異次元」

という言葉ですね。

一瀬 安いだけの食器ではない、

食器にどうわざずに感性が響くものを

受け入れてきたからだと思いますね。

波佐見焼はなぜ、どんどん変わつ

つたのでしょうか。

穴見 一言でいえば、「異次元」

という言葉ですね。

一瀬 安いだけの食器ではない、

食器にどうわざずに感性が響くものを

受け入れてきたからだと思いますね。

波佐見焼はなぜ、どんどん変わつ

つたのでしょうか。

穴見 一言でいえば、「異次元」

という言葉ですね。

一瀬 安いだけの食器ではない、

食器にどうわざずに感性が響くものを

受け入れてきたからだと思いますね。

波佐見焼はなぜ、どんどん変わつ

つたのでしょうか。

穴見 一言でいえば、「異次元」

という言葉ですね。

一瀬 安いだけの食器ではない、

食器にどうわざずに感性が響くものを

受け入れてきたからだと思いますね。

波佐見焼はなぜ、どんどん変わつ

つたのでしょうか。

穴見 一言でいえば、「異次元」

という言葉ですね。

一瀬 安いだけの食器ではない、

食器にどうわざずに感性が響くものを

受け入れてきたからだと思いますね。

波佐見焼はなぜ、どんどん変わつ

つたのでしょうか。

穴見 一言でいえば、「異次元」

という言葉ですね。

一瀬 安いだけの食器ではない、

食器にどうわざずに感性が響くものを

受け入れてきたからだと思いますね。

波佐見焼はなぜ、どんどん変わつ

つたのでしょうか。

穴見 一言でいえば、「異次元」

という言葉ですね。

一瀬 安いだけの食器ではない、

食器にどうわざずに感性が響くものを

受け入れてきたからだと思いますね。

波佐見焼はなぜ、どんどん変わつ

つたのでしょうか。

穴見 一言でいえば、「異次元」

という言葉ですね。

一瀬 安いだけの食器ではない、

食器にどうわざずに感性が響くものを

受け入れてきたからだと思いますね。

波佐見焼はなぜ、どんどん変わつ

つたのでしょうか。

穴見 一言でいえば、「異次元」

という言葉ですね。

一瀬 安いだけの食器ではない、

食器にどうわざずに感性が響くものを

受け入れてきたからだと思いますね。

波佐見焼はなぜ、どんどん変わつ

つたのでしょうか。

穴見 一言でいえば、「異次元」

という言葉ですね。

一瀬 安いだけの食器ではない、

食器にどうわざずに感性が響くものを

受け入れてきたからだと思いますね。

波佐見焼はなぜ、どんどん変わつ

つたのでしょうか。

穴見 一言でいえば、「異次元」

という言葉ですね。

一瀬 安いだけの食器ではない、

食器にどうわざずに感性が響くものを

受け入れてきたからだと思いますね。

波佐見焼はなぜ、どんどん変わつ

つたのでしょうか。

穴見 一言でいえば、「異次元」

という言葉ですね。

一瀬 安いだけの食器ではない、

食器にどうわざずに感性が響くものを

受け入れ